2023年5月21日

主の昇天の主日

菊地功大司教　メッセージ

使徒言行録は、新しいいのちへと復活された主イエスが、弟子たちとともに40日を過ごした後に天にあげられるとき、弟子たちに対して、神の国について教え、地の果てに至るまで、イエスの証し人となるように命じられたと記しています。

マタイの福音も、主イエスが残される弟子たちに、「あなた方は行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい」と命じる言葉を記しています。

主の受難と死と復活に与り、新しいいのちへと招かれたわたしたちには、福音を告げ知らせる使命が与えられています。その使命を果たすことは、キリストに従う一人ひとりの責任です。同時に、パウロがエフェソの教会への手紙に記すように、「教会はキリストの体」ですから、ともに道を歩む教会共同体全体にとっての責任でもあります。福音を告げ知らせないキリスト者はいないのと同様、福音を告げ知らせない教会共同体もあり得ません。

主が取り去られてしまった弟子たちは、希望を失い、大きな絶望を味わったことでしょう。茫然自失の状態で立ち尽くす弟子たちに、主御自身が希望の言葉を告げます。「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」

困難な状況の中にあるときこそ、未来への希望は人を生かします。希望は不安を打ち砕き、行動へと駆り立てる勇気を与えます。希望は、利己心にがんじがらめにされた心を解放し、助けを必要としている他者に向けて心を向けさせます。

だからこそマタイの福音に記されたイエスご自身の言葉は、わたしたちの生きる希望です。

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」

様々な困難に直面し、人間という存在の弱さと小ささを自覚させられるときに、それでもわたしたちは見捨てられることはない。いつまでも共にいてくださる主が、未来に向かって歩みを共にしてくださる。わたしたちは、この約束の言葉に、生きる希望を見いだします。

主がともに歩んでくださるからこそ、わたしたちはその主を具体的にあかしするように努めましょう。世界を支配するのは暴力であってはなりません。いのちの選別であってはなりません。弱者の排除であってはなりません。困難に直面する社会で真の希望を生み出すために、すべての人と真の連帯を強め、忍耐と謙遜の内に希望の福音をあかしする者となりましょう。